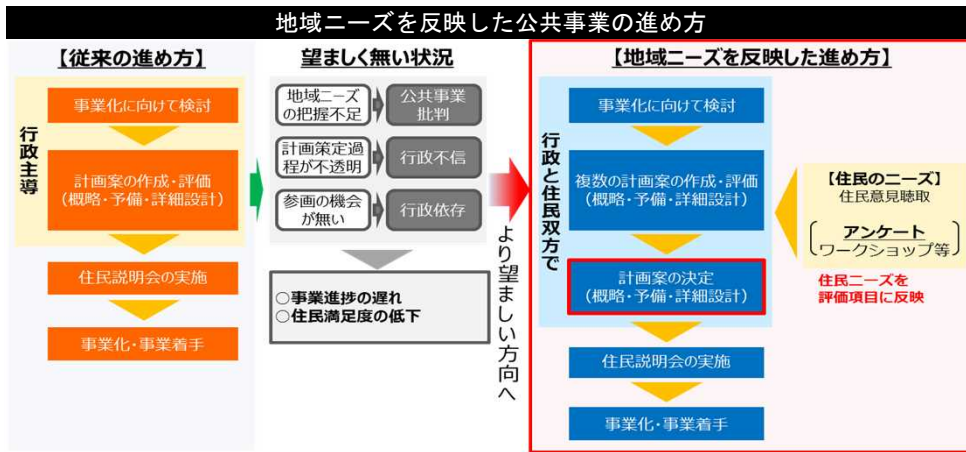


① 「地域ニーズを反映した公共事業」の推進

県民目線に立った県政の推進による県民との対話と協調をベースとした社会資本整備を推進するため、事業計画の決定プロセスの透明性の向上を図り、地域ニーズを的確に反映する必要があります。

そのため、県が決めてから県民に計画を示し、理解・協力を求める従来の進め方ではなく、アンケートなどにより、事前に地域や住民のニーズを把握し、計画に反映させる「地域ニーズを反映した公共事業」の取組を推進します。



平成30年度は県内12土木事務所で18箇所の「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組めました。平成31年度については、道路18事業、河川1事業、砂防16事業、都市計画1事業、駅周辺整備1事業の全37事業で引き続き「地域ニーズを反映した公共事業」を取組む予定です。

取組の事例

都市計画道路 渋川高崎線 渋川市

平成30年度に都市計画道路渋川高崎線（渋川市）で実施した「地域ニーズを反映した公共事業」の事例です。

延長約500mの道路計画を決定するため、本石原、石原の2地区に約800部のアンケートを配布しました。

また、住民説明会を行い、地域の方と直接対話を重ねることで、地域の求めるニーズを把握し、道路計画に反映させました。

## ②「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」等の推進

地域の魅力を高め、「もっと訪れたいくなる・もっと自慢したいくなる」群馬県をつくるために、県内のインフラ施設やインフラ施設から見える風景を魅せる「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備」等の取組を推進します。

### (1) ぐんまの風景を魅せるインフラ整備事業・ぐんまの風景を魅せるインフラ維持管理事業

道路を走りながら「ぐんまの山々や街並みなどの周囲の風景」を魅せることや、「人が歩きたくなる道路」「触れたいくなる河川空間」をつくるインフラ整備・維持管理を行う取組です。



### (2) ぐんまの風景を魅せるインフラ施設～SNS映えするおすすめスポット～の紹介

群馬県内のインフラ施設やインフラ施設から見える風景について、その魅力を伝え、情報発信したインフラ施設や周辺地域へ人々に訪れてもらい、更なるにぎわいを創出するため、インフラに関連するSNS映えするような風景写真とその魅力を発信する取組です。



平成31年度は「ぐんまの風景を魅せるインフラ整備事業」に5箇所、「ぐんまの風景を魅せるインフラ維持管理事業」に41箇所を取組む予定です。

取組の成果については、県土整備部の公式Facebook「いいだんべえぐんまの土木」(<https://www.facebook.com/kendo.gunma>)に随時掲載していく予定です。

### 県道下高尾小幡線 甘楽町

### 取組の事例



平成30年度に甘楽町小幡地区の県道下高尾小幡線で実施した「ぐんまの風景を魅せるインフラ維持管理事業」の事例です。

県道下高尾小幡線は景観に配慮した石畳風の舗装や、縁石に御影石を用いた道づくりがされており、土木遺産の雄川堰を中心に歴史的町並みと桜並木によって、美しい風景が形成されています。

平成30年度に老朽化した縁石を清掃することで、美しい風景に調和した道路施設の姿を取り戻しました。



### ③「建設産業の働き方改革」の推進

建設産業は、社会資本の整備と維持管理の担い手、災害時における地域の安全・安心の守り手であるとともに、地域の経済や雇用を支える重要な役割を担っています。

将来にわたって、社会資本の着実な整備や適切な維持管理を推進し、地域の安全・安心を確保するため、建設産業の担い手の中長期的な確保・育成を支援し、建設産業の働き方改革の取組を推進します。

#### (1) 地域にあったICT技術の活用促進

公共工事における作業プロセスの効率化による、建設現場の生産性向上を図るため、ICT技術の積極的な活用を促進します。測量から施工・検査に至るすべてのプロセスにおいてICT技術を全面的に活用する「ICT活用工事」などに取り組みます。



群馬県では、ICT活用工事を発注者指定型と施工者希望型の2つの方式で試行しています。

平成30年度はICT舗装工事を10件、ICT土工工事を47件実施しました。

平成31年度はICT舗装工事を12件以上、ICT土工工事を24件以上発注し、引き続きICT技術の活用促進を図ります。

(主)大間々世良田BP (笠懸薮塚工区)  
ICT施工による路盤工事の状況



#### 県道前橋伊香保線 吉岡町 ICT施工による除雪工事

全国初のICT除雪!



道路除雪は安全で円滑な冬期交通を確保するため、重要な役割を担っています。

一方、熟練オペレーターの高齢化や担い手不足などの問題が深刻化する中で将来にわたり、道路除雪の技術レベルを維持していくことは重要な課題となっています。

群馬県では、平成31年1月15日から平成31年2月28日まで吉岡町の県道前橋伊香保線で全国で初となるICT技術を活用した道路除雪の試行を行い、道路除雪が抱える課題の解決に向けて取組み始めました。

